

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

大成館中学校区	校番 31	福山市立今津小学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型「スキル&倫理観」」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀「スキル&倫理観」)	相手意識をもって、自分の言葉で表現する力 ～コミュニケーション能力と思いやり～
<ul style="list-style-type: none"> ▶子どもが進んで授業をつくるための教職員研修を充実させてほしい。 ▶関係機関と連携し、教職員が信頼される学校をつくってほしい。 ▶保護者、地域と連携し、健やかな子どもの育成を実現してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶基礎学力の定着「表現力」「書く力」に課題がある。 ▶体力面の課題が改善しつつある。 ▶あいさつや無言掃除は、小中一貫した取組の成果が見られる。 ▶地域との交流により、郷土への愛着心が高まっている。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	変化の激しい社会をたくましく生きる子ども (1) 基礎学力を身につけ、自ら学び続ける子 (2) 運動・食習慣を身につけ、活力のある生活ができる子 (3) 規範意識を身につけ、思いやりのある言動ができる子
		中学校区として統一した取組等	(1) 学力向上…自ら考え学ぶ児童生徒の育成、家庭学習の定着 (2) 体力向上…各校独自課題の克服、食育の推進 (3) 連携教育…規律、小中歌声交流会、各種学校行事の交流、ふるさと学習の推進

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀「スキル&倫理観」)	主体性	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	感謝・思いやり	
1 児童が楽しく登校し、全力で自分の能力を発揮できる安全・安心な学校 2 確かな学力を身につけ、自他共に感謝・思いやりを大切にする児童の育成	めざす子ども像	低	様々な物事を自分で考えて積極的に最後まで取り組もうとしている。	体験活動を通して問題に気づき、自分の考えを進んで交流し、解決することができる。	自分の考えや思いを順序立てて話したり、大事な事を落とさないようにきいたりすることができる。	自分の周りの人、物に対して、ありがとうの気持ちを伝え、温かい心で接したりしようとしている。
学校教育目標 心豊かに自立・貢献・感謝する児童・生徒の育成 感謝・思いやりの心を持ち、自ら学び、幸動する今津っ子の育成		中	様々な物事に興味を持ち、自分から進んで何でも工夫して挑戦しようとしている。	問題状況の中から課題を発見し、解決の見通しをもって情報を収集し、事象を比較したり、関係づけたりして解決することができる。	理由や事例を挙げながら話したり、話の中心に気がつけて聞き、質問や感想を述べたりすることができる。	自分の周りの人、物に感謝の気持ちを自分の言葉や態度で表そうとしたり、お互いを支え合う態度で接したりしようとしている。
現状		高	様々な物事に興味を持ち、自分の意志と判断で取り組んだり、他に働きかけたりしようとしている。	問題状況の中から課題を設定し、効果的な手段を選択し、情報を収集し、事象間の因果関係を分析したり、推論したりして解決することができる。	自分の考えや気持ちが明確に伝わるように表現を工夫したり、相手の意図をつかみながら話し合ったりすることができる。	自分の周囲の人や物、環境に対し、感謝の気持ちをこめた言葉や態度で表そうとしたり、相手を尊重した共感的な態度で接したりしようとしている。
研究	教科等	算数科、生活科・総合的な学習の時間				
	主題・内容等	自分の考えをもち、相手意識をもって表現する力の育成 ～「課題意識・解決学習」を重視した、主体的な学びの創造～				
めざす授業の姿	児童が、課題の解決に向け、友達と協働して考えたり、教え合ったり、意見を交わしたりしながら、主体的に学ぶ授業。					

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)		
							□指標に係 る取組状況	力を入 れ達成 評価	改善方策	□指標に係 る取組状況	力を入 れ達成 評価	総合 評価
3	自ら考え学ぶ 児童の育成	★	継続	①主体的に自分 の考えを表現し ようとする児童 を育てる。	▶授業で、児童に 指示することと 児童が決めるこ とのバランスを 考える。 ▶授業に考え、表 現する(話す・書 く)場を設定す る。	▶「授業で考えることは おもしろい」と答える 児童が80%以上 ▶「友だちと話し合う活 動を通じて、自分の考 えを深めたり広げたり することができている。」と答える児童が8 0%以上						
				②「子ども主体の 学び」に向けた授 業力を向上させ る。	▶カリキュラムマッ プを活用して、育成 するスキル&倫理 観及び教科間のつ ながりを意識した 授業計画を立てる。 ▶学びファイルを 活用して自己の 学びを実感させ る。	▶算数・国語において、1 時間の役割を明確にした 単元指導計画を学期に1 単元ずつ学年で作成し授 業に臨む。 ▶校内研修において、毎 月、学びファイルの状 況及び主体的な学びの 見取りについて交流す る。						
				③児童の自己肯 定感や自己有用 感を向上させる。	▶たてわり活動を活 用した異学年の学 びを進める。 ▶児童の特性や困 り感を理解した 授業づくりを進 める。	▶「自分の考えは認めら れている」と答える児 童が80%以上						
3	児童の主体性 の育成	★	継続	⑤自らの体力や 健康を進んで高 める児童の育成。	▶生活調べや体つ くりの宿題によ る家庭との連携。 ▶体育科授業前サ ーキットトレー ニングの実施。	▶体力テストでの、県平 均を上回る種目率5 0%以上。 ▶早寝・早起き・朝ごは ん90%以上の定着。						
				⑥全ての児童が 「学校へ行くのが 楽しい」と思え る学校づくりを 進める。	▶児童が2日連続 欠席したら家庭 訪問を実施する。 ▶昨年度長欠児童 家庭への継続的 な家庭訪問を行 う。	▶「学校へ行くのが楽し い」と答える児童を9 0%以上。 ▶新たな長欠0 長欠児童数前年比5 0%(6人)						
3	地域とつなが る感謝・思い やりの心の育		継続	⑥地域の人やも のに興味や関心 を持つ児童を育	▶複数教科で地域 とつながった学 習や体験を実施 する。	▶「地域行事に参加して いる」「地域の人にあ いさつをしている」と 答える児童が80%以						

	成			てる。		上。													
		★	継 続	⑦周りの人を気遣う行動力を育てる。	▶幸動「あいさつ、無言掃除、時間を守る」の日常化 ▶縦割り班活動の充実	▶幸動三項目の肯定的評価85%以上。													
1	主体的な学びを創る教職員体制の構築	★	新規	教職員の笑顔・元気・やる気を向上させる。	▶週1回の定時退校日を徹底する。 ▶授業づくり(月1回)タイムや学年会(毎週)の時間を保障する。	▶「仕事にやりがいを感じている・仕事の中で充実感を感じている」80%以上													

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。